

2月9日：ベトナム株は流動性が低下し、まちまちの動き

ベトナム株はボラティリティの高い動きとなっている。市場の見通しについて投資家の警戒感が高まっているようだ。

ホーチミン取引所のVN指数は0.76%安の1,064.03ポイントで取引を終えた。指数は前営業日に0.6%ほど上昇していた。

流動性は火曜日の12兆ドンから下落し水曜日に10兆ドン、木曜日は9.2兆ドンとなった。

大型株が下げを牽引した。全体としては、上昇銘柄が185銘柄に対して235銘柄が下落とまちまちの動きだった。

ベトジェット航空（VJC）はコロナからの回復で好決算を見せたが、5.7%安となり市場を驚かせた。

その他、ベトコムバンク（VCB）、ベティンバンク（CTG）、BIDV（BID）、テクコムバンク（TCB）、マサングループ（MSN）、モバイルワールドインベストメント（MWG）、ビンホームズ（VHM）、ビンコムリテール（VRE）、ホアファットグループ（HPG）などの大型株が1.1-2.8%下落した。

多くの大型株が下落したことで、セクター別でも下落が多かった。

一方、上昇したセクターとして、石油ガスセクターが挙げられる。ペトロベトナムガス（GAS）は0.8%高、PVD、PGCといった銘柄も大きく上昇した。

ロンベト証券によると、ベトナム市場の下落は支持線である1,065ポイント付近で止まっている。流動性の低下は、売り圧力も低下していることを表している。

しかしながら、反発するとも考えられない。資金流入は限られており、上昇すると売り圧力が高まっている。ベトナム市場は1,070-1,080ポイントで横ばいが続くだろうと同社は予想した。

ハノイ取引所のHNX指数は0.14%高の210.91ポイントで取引を終えた。

流動性は低下し、出来高は 4,600 万株、売買代金は 7,430 億ドンとなりそれぞれ前日比で 25.5%、15.8%減少した。

外国人投資家もまちまちの動きだった。ホーチミン市場では 110 億ドンの売り越し、ハノイ市場では 50 億ドンの買い越しだった。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。